

「現代勘亭流シンポジウム」開催のお知らせ



岡崎屋勘六の墓
(浅草清光寺)

江戸は安永年間に創始されたという歌舞伎文字「勘亭流」は、鳥居清長の絵看板に岡崎屋勘六が大書した外題「御鼎肩年々曾我」を嚆矢とし、勘六の俳号から勘亭流とよばれるようになりました。

以降、絵番付の版元、芝居周辺の文化人、狂言作者の台本用と、それぞれの流れで名手がその技を伝えて来ました。

現代にこれを伝える各派の勘亭流の担い手が集まり、初めてのシンポジウムを開催致します。

記

●日時：平成22年11月22日（月）

午後1時～5時30分：資料展示

午後3時～4時10分：シンポジウム（70分）

●場所：国立伝統芸能情報館（三宅坂国立大劇場裏）

3階レクチャー室

<http://www.ntj.jac.go.jp/gekijo/tradition/index.html>

●内容

▼資料展示

江戸からの歌舞伎絵番付、現代各派の代表作品、
筆法映像（100インチモニター）

～可能な限りでの筆法実演も行います。～

▼シンポジウム

【列席者】（敬称略）

小山観翁（江戸勘亭流家元、かぶきキャスター、歌舞伎イヤホンガイド解説）

伏木寿亭（光亭勘亭流書道研究会奥伝 指導、松竹歌舞伎筋書 平成中村座筆耕）

荒井三鯉（三禮勘亭流主宰、国立劇場初芝居口上看板筆耕、寄席文字 橘右橘）

【ゲスト】

古賀司郎（狂言作者 竹柴鑿助ご子息、国立演芸場支配人）

勘六墓石（裏面）



有りがたや心の
雲乃晴わたり
只一筋に
向ふ極楽

■入室料：500円申し受けます

企画運営 大有企画 ☎03-3801-6799

三禮勘亭流ホームページ <http://www.kanteiryu.jp/>（準備中）